



## 今日のトピック 軟調に推移する原油価格（2019年8月） 景気減速懸念は継続も、政策効果やOPEC動向に注目

### ポイント1 原油価格は軟調に推移 景気減速懸念などが背景

- 北米の代表的な原油価格であるWTI原油価格は、2019年4月以降、軟調な動きとなっています。
- 米中貿易摩擦やそれに伴う世界的な景気減速懸念、高水準で推移する米国の原油生産などが背景です。

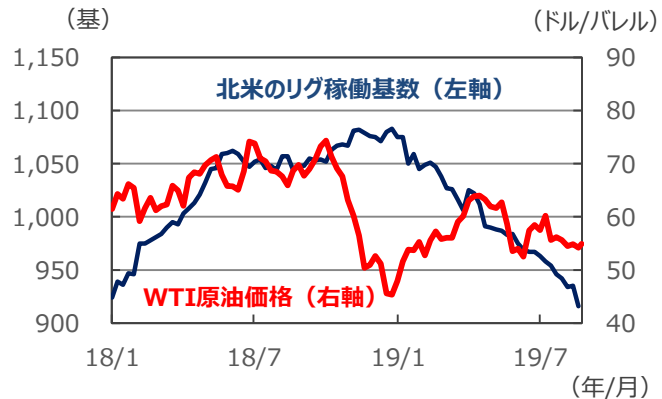
### ポイント2 OPEC産油量は減少が継続 現状のままなら今年はやや需要超か

- 8月16日に公表された石油輸出国機構（OPEC）月報の8月号によると、OPEC加盟国の原油生産量は減少が続いています。7月の生産量は日量で前月比▲24.6万バレルとなる2,961万バレルでした。
- 2019年の世界の原油需要は日量9,992万バレルと予想されています。需給の均衡にはOPEC加盟国で3,070万バレルの供給が必要とみられますが、原油生産量が現状の2,961万バレル程度で推移すれば、2019年は需要が供給をやや上回りそうです。
- なお、OPECは19年の原油市場についてやや弱気な見通しを示したうえで、需給バランスを引き続き注視し、市場の安定をサポートしていくとしています。

### 今後の展開 景気減速懸念は継続も、政策効果やOPEC動向に注目

- 米中貿易摩擦は、米中が互いに追加関税の引き上げを表明するなど、先行き不透明感の強い状況が継続しています。そのため、世界的な景気減速懸念が意識されやすい状況は当面続くとみられます。
- 一方、世界中の中央銀行が続々と利下げに踏み切っているほか、中国やドイツなどでは財政政策が強化されるとの観測もみられます。こうした政策の効果が出てくれば、原油価格が下支えされる可能性があります。

【WTI原油価格と北米のリグ稼働基数】



(注) データは2018年1月5日～2019年8月27日。ともに週次データ。リグ稼働基数は2019年8月23日まで。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2018年	2019年	2020年
<b>世界需要</b>	<b>98.8</b>	<b>99.9</b>	<b>101.1</b>
<b>供給</b>	<b>99.0</b>	<b>99.9</b>	<b>101.1</b>
非OPEC	67.2	69.2	71.6
OPEC	31.9	30.7	29.4
<b>需給バランス</b>	<b>0.2</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>

(注1) 需給バランス = 供給 - 需要。  
(注2) 単位は百万バレル（日量）。  
(注3) 2018年は実績。2019年、2020年はOPECによる予想。ただし、2019年と2020年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。  
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。  
(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

- また、足元では、サウジアラビアが原油価格の下支え策を主要産油国と議論しているとの報道がみられます。12月に開催予定のOPEC総会を控え、状況によっては減産の強化に向けた動きが出てくる可能性があることから、動向が注目されます。

ここもチェック! 2019年8月26日 先週のマーケットの振り返り（2019/8/19-8/23）  
2019年7月22日 足元で下落に転じた原油価格（2019年7月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。